

## 第3章—4 Cブロックの研究のまとめ

### Cブロック

大阪市立三軒家西小学校（公立）・大阪市立三軒家西幼稚園（公立）  
大阪市立大浪保育所（公立）・大正ゆめの樹保育園（私立）

【ブロックテーマ】 「大人も子どもも知る・学ぶ・つながる  
～楽しく安心できる、今をつくるために～」

【指導助言】 神戸女子大学 金岩 俊明 教授

## 1 研究の方法

### (1) ブロックの現状と課題

コロナ禍前までは、2か月に1回程度三軒家西小学校、三軒家西幼稚園、大浪保育所等が交流していたが、令和3年度は同様の交流を行うことができなかった。小学校に隣接する幼稚園は、日頃から給食の時間を活用して校庭に遊びに行く機会が多く、小学校という場所や小学校の教職員への親しみをもち、「小学生に早くなりたいな」と期待をもつ姿が見られた。

このような雰囲気や状況をブロック内で共有し、小学校との縦のつながりと、就学前施設同士の横のつながりを築いていけるように研究に取り組んだ。

### (2) テーマ設定の理由

研究に取り組むにあたって、各校園所の現状と課題を踏まえて「何をどうしていきたいか」という意見を出し合う中で共通していたのは、次の3点の深化・充実であった。

#### ①教職員のつながり

各校園所の教職員がお互いの存在を知り、それぞれの施設での教育活動について情報交換をしたり、授業や保育を見合い、討議会を実施したりすることが、小学校に送り出す側と受け入れる側として、広く就学への安心感につながるのではと考えた。

#### ②就学前施設同士の関わり

同じ地域の教育活動に参加する子どもたちが、遊びを通して関わり親しみをもつことで、地域の子どもの輪の広がりや就学への期待につながるのではと考えた。また、各施設の保育内容や子どもの姿を共有し合うことが、お互いの保育力の向上につながるのではないかと考えた。

#### ③各校園所の子どものつながり

子ども同士が同年齢・異年齢・異校種間での関わりをもち、一緒に活動する楽しさを味わうことで、親しみを感じ、人と関わる力がさらに育つのではないかと考えた。

以上3点の関わり・つながりを広げ深めることが、子どもたちが安心して生活することにつながるのではないかと考え、『大人も子どもも知る・学ぶ・つながる』というテーマを設定した。

### (3) 取組内容

- ・各校園所の教職員と子どもが多様な関わりをもち、お互いを『知る』
- ・教職員が学習会、研究授業、研究保育等を通して『学ぶ』
- ・子どもが、交流活動や日々の保育・授業を通して『つながる』

### (4) 取組計画

R 4年度 4月	
5月	5/11 事業説明・顔合わせ・ブロック会
6月	
7月	7/6 15:30～17:00 教職員学習会・交流会（三軒家西幼稚園）
8月	
9月	
10月	
11月	11/15 10:00～11:00 3園所交流（三軒家西小学校校庭・講堂） 11/30 15:30～17:00 3園所交流振り返り・学習会・交流会（三軒家西幼稚園）
12月	
1月	1/19 13:00～16:30 三軒家西幼稚園研究保育・指導助言・討議会
2月	2/7 10:00～12:00 大浪保育所研究保育・指導助言・討議会
	2/13 9:30～11:30 大正ゆめの樹保育園研究保育・指導助言・討議会
	2/13 13:55～14:40 三軒家西小学校生活科（1年生）授業参観
	2/22 9:45～11:00 1年生と5歳児の交流会（三軒家西小学校）
3月	3/6 15:30～17:00 交流会振り返り・交流会・次年度に向けて（三軒家西幼稚園）
	3/27 10:15～11:45 スタートカリキュラムの作成（三軒家西小学校）
R 5年度 4月	4/25・26 8:45～9:35 三軒家西小学校授業見学（1年生）
5月	5/19 15:30～17:00 教職員学習会・交流会（三軒家西幼稚園）
6月	
7月	
8月	
9月	9/13 15:30～17:00 教職員学習会・交流会（三軒家西幼稚園）
10月	
11月	11/2 15:30～17:00 保幼小連携・接続研究報告会リハーサル （三軒家西小学校）
	11/15 9:45～10:30 3園所交流会（三軒家西小学校）
	11/17 13:30～17:00 保幼小連携・接続研究授業（1年生）・研究報告会・ 研究討議会（三軒家西小学校）
12月	
1月	1/24 15:30～17:00 大正区教員研究発表会への参加
2月	2月中旬 5歳児が1年生の授業見学
3月	

## 2 主な取組

### 【1年目の取組】

#### (1) 教職員学習会・交流会 (7月6日)

「保幼小連携・接続のあり方」の演題で、神戸女子大学 金岩 俊明教授からご講演いただいた。

##### 《講演内容》

これまでの幼保小の連携における成果として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」が策定されたにも関わらず、十分機能していない。また、それぞれの施設の違いを越えた共通性が見えにくい。

人工知能が発達しても、ヒトが共同して様々なことに取り組むことより上回ることはなく、子どもたちがつながっていく仲間として思っていることや気付いていることを言語化できるように思考力を高めていかなければならない。そのために、子どもが生活や遊びの中で心を動かし、心ゆくまで経験できることを大切にしていきたい。地域の力が低下してきていることから、それぞれの施設が質を高め、今後、子どものつながりがより深いものになるよう、連携をとり様々な分野での育ちを深めていけるよう進めていく。

##### 《討議内容》

学習会後は、子どもだけにとどまらず、大人もつながっていく仲間として理解を深め合えるきっかけになるよう、4校園所の教員がいくつかのグループに分かれ、それぞれの現状などを話し合った。これまで見えてこなかった、それぞれの施設の子どもたちの様子や生活などについて、教員間での疑問などの意見交換をした。教員間は和気あいあいとした雰囲気での交流できた。

#### (2) 三軒家西小学校で3園所交流活動 (11月15日)

ねらい ○近隣の地域で過ごしている小学校の児童や同年齢の友達を知る

○初めて出会う友達と一緒に遊びを楽しみ、お互いに関心や親しみをもつきっかけづくりをする

##### 活動の内容と子どもの姿

##### <三軒家西小学校1年生・先生との関わり>

1年生が正門前で各園所の子どもたちを温かく迎えてくれた。集まった子どもたちが、教頭の話と一緒に聞き、交流活動への期待が高まった。

##### <校庭での好きな遊び>



3園所の子どもたちが思い思いに、好きな遊びを楽しんだ。広い校庭で鬼遊びをしたり、ジャングルジムやのぼり棒を使ったりして思いきり体を動かすことを楽しんだ。

### < 体育館での遊び >

事前に設定していた共通の歌「まつぼっくり」で歌遊びや仲良し遊び、じゃんけん遊びを行った。遊びが進むにつれて、3園所の子どもたちが関わりを楽しむようになってきた。



#### 《 討議内容 》

- ・ 3園所の子どもたちが、交流活動の遊びを重ねていく中で、少しずつ距離が縮まっていく様子が見てとれた。帰園前には、「また、会おうね!」と声をかけあう姿が見られた。
- ・ 校庭で、三軒家西小学校の教頭の話聞いていた時に緊張気味だった子どもたちが、どんどん表情豊かに、のびのびと遊びを楽しむようになっていった。
- ・ 教員が、3園所の子どもたちのつながりをもたせようという意識をもって関わると、そこが起点となり関わりが広がられるようになった。教員の教育的意図をもった働きかけが必要である。

#### 《 指導助言 》

- ・ 小学校という憧れの環境で、思い切り体を動かし、新しい友達と一緒に遊ぶことができた。
- ・ 小学校の生活を感じ、小学校の教員と関わり、安心感に結び付けることができた。
- ・ 個のペースを大切にしながら、ゆったりとした時間を過ごすことができた。

### (3) 研究保育

#### ○大阪市立三軒家西幼稚園 「友達や教師と様々な表現遊びを楽しむ」(1月19日)

- ねらい ○友達や教師とお話のイメージを共有しながら、ブラックライトを用いて遊ぶ楽しさを味わう
- 友達や教師とイメージを共有し、動きや言葉等で表現したり、演じたりして遊ぶ楽しさを味わう

#### 活動の内容と子どもの姿

##### < 子どもと参加者の方の関わり >



子どもと参加者が一緒に体を動かして遊ぶことを楽しんだ。

##### < 表現遊び・ブラックライト遊び >



お話のイメージでなりきって遊ぶことや、ブラックライトを用いた表現遊びを存分に楽しんだ。



《討議内容》

- ・一人ひとりが思いを出せる、安心して声に出してよいと感じられる受けとめがあった。
- ・すべての人的・物的環境をプラスに捉え、友達との違いを『多様性』として認め合うことができていた。
- ・子どもの姿や言葉を担任教員がすべて拾っている。
- ・小さな言葉やつぶやきを大切にしている。

《指導助言》

- ・主活動が2つあり、両方とも全身で楽しんだ充実感があった。
- ・話のストーリーとの関係を自分なりに解釈し、子どもたちが登場人物の内面を想像している。

○大阪市立大浪保育所 「友達や保育者と言葉あそびを楽しむ」(2月7日)

ねらい ○言葉遊びを通して文字への興味・関心を深める

○友達と共通の目的をもち、話し合ったり、協力したりしながら活動を進め、気持ちを合わせて遊ぶ

活動の内容と子どもの姿

<子どもと参加者の方の関わり>

<言葉探しゲーム、○文字の言葉集め>



小学校の教員が言葉集めの5文字のヒントをくれて、盛り上がった。

床いっぱいに広げたカードから、グループの友達と一緒に文字を探し、3・4・5・6文字の言葉づくりを楽しんだ。

《討議内容》

- ・子どもたちが安心して過ごしている様子や10の姿を大事にしていることを感じる事ができ、保育者が子どもを待つこと、言い過ぎないことが大事であることを再認識した。
- ・子どもたちが主体的に自分のしたいことに取り組むことができた。

《指導助言》

- ・遊びに必要なひらがな表やボードを前面に準備するなどの環境の工夫で、みんなが絵を見ながら考えて楽しめるため、保育者の適切な支援が必要である。
- ・その日の遊びがどうだったのか、振り返りの時間を充実させていくことが大事である。

○社会福祉法人三養福祉会大正ゆめの樹保育園「劇に必要なものを友達と一緒に作る」(2月13日)

ねらい ○友達と考えを出し合いながら、ふすまづくりを楽しみ、完成したことへの期待や達成感をもつ

活動の内容と子どもの姿

<サークルタイム>



友達の考えを知ったり、自分の考えを言葉にしたりし、制作活動のイメージを膨らませた。

<制作活動>



「ふすま」に描かれている絵や色など、グループ内で話し合いながら進めていった。筆の使い方など、子どもたちで決めた約束事を守ろうとしていた。別のグループの友達の言葉や動きを気にかけてながら、仕上げていく姿が見られた。

《討議内容》

- ・『サークルタイム』で自分の意見や友達の意見を聞いたり、受け入れたりする姿が見られた。
- ・制作活動で友達と相談したり、周りのことをよく見たりしていると感じた。

《指導助言》

- ・皆の前で発言しにくいこともあるので、ペアトークをすることも良い。
- ・活動の振り返りをするのが大切である。その都度、出来上がったものへの評価などの振り返りをしていくようにする。

(4) 授業参観 三軒家西小学校生活科 (2月13日)

〈めあて〉「お店の用意をしよう」

- 目標 ○5歳児に喜んでもらえるように、昔遊びの遊び方を分かりやすく伝えようとしている。  
○5歳児の気持ちを想像し、関わり方を決めている。  
○看板作りに際し道具や用具の準備、片付け、整理整頓ができています。

活動の内容と子どもの姿

<子どもと参加者の方の関わり>



2月22日の1年生と5歳児の交流会のため、1年生が昔遊びを企画し、看板づくりなどをグループ活動で行う。

<看板作り>



昔遊びが6つあり、グループに分かれて看板づくりを始めた。5歳児のため、絵を多くするなどの意見が出た。

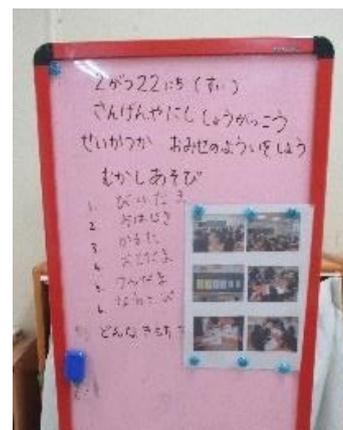
### 《討議内容・感想等》

- ・卒園、修了児が学校生活に馴染み、学習する姿を見ることができ、就学前施設の教職員は安心した。
- ・友達の考えを聞いて拍手をしたり、支援の必要な子どもを周りの子どもたちが自然に受け入れ子ども同士が認め合ったりしている姿や雰囲気良かった。
- ・5歳児を迎えるにあたり、「字わかれへんで、絵描いてあげな」などのいたわりの気持ちや活動への期待が感じられた。

### 各園所の子どもの姿

各園所の子どもたちに生活科の授業時の写真等を見せて、昔遊びへの期待をふくらませる。

参観の写真を見せながら、昔遊びの準備をしている1年生の様子や遊びの説明を行う。「ちょっと緊張する」「やったー！早く遊びたい」などの様々な声があがり、期待につながる。



### (5) 1年生と5歳児の交流会 (2月22日)

小学校の講堂に5歳児を招き、一緒に昔遊びの活動を行った。1年生は5歳児に喜んでもらえるように関わり方を考え、5歳児は「1年生になったつもりで」一緒に遊びを楽しむことができた。いろいろな遊びを行う中で、1年生は関わり方を改善しようとし、5歳児は1年生に親しみの気持ちをもって接することができるようになった。

### 《教職員の振り返り》

- ・1年生の担当教員の話口調がとても柔らかかった。「1年生になった気持ちで、楽しんでくださいね」という言葉に5歳児は喜びを感じ、1年生や友達、先生方と昔遊びを楽しむことができた。
- ・事前に1年生の担当教員が自施設の研究保育に参加した際、昔遊びに招待してもらったことを子どもたちが覚えていて、期待が膨らんでいた。事後に、自施設で交流を知らせるドキュメンテーションを見ながら、5歳児が異年齢児に説明している姿が見られた。
- ・保護者も交流会を楽しみにしており、「小学校どうだった？」と、子どもに聞いていた。就学に向けての期待と不安は、子どもだけではないと感じた。
- ・交流後、昔遊びで教えてもらったことを自分たちで伝え合い、遊びを楽しんでいる。
- ・3園所の5歳児は単学級で、園外の方との関わりも少ないため、年上の友達ができ、やさしく関わってもらえることに大変満足していたようだ。

### 《指導助言》

- ・5歳児が安心できるように、交流会の始めに歌と手遊びを取り入れて気持ちをほぐしたり、1年生に司会を任せ、必要に応じて1年生の気持ちを代弁したりする、担当教員が醸し出す居心地の良い雰囲気が良かった。
- ・片付けなどを時間内に、子どもたちが最後までやり切っていたことも充実感や満足感につながった。

## 【1年目の成果と2年目を迎えるにあたって】

1年目の成果として、各校園所の教職員と子どもが多様な関わりをもち、お互いの存在を知ることができた。そして、教職員がお互いの保育・教育活動についての学びやその機会を共有し、教職員や子ども同士の交流活動を通して『つながる』ことができた。それらが、4校園所同士の交流や接続の土台づくりにつながった。

2年目を迎えるにあたって、

- ・子どもにも大人にも無理なく、日常的な関わりを柔軟に継続する
- ・4校園所でスタートカリキュラムを協働作成し、活用する
- ・スタートカリキュラムによる1年生の実態の変化を調査するため、学年担当がアンケートを聞き取りで実施する

以上の3点について共通理解をした。

## 【2年目の取組】

### (1) スタートカリキュラムの協働作成 (3月27日)

小学校では、基本的に1つの教科時間を45分として取り組むことが多い。保育園や幼稚園では、子どものその時々様子で活動を15分で区切ったり、1時間延長したりすることを先生方との交流の中で初めて知った。それを受けて、1時間の授業を大まかに15分や30分ごとに区切り、国語や音楽や学活等、複数教科を流動的に切り替える時間割を4校園所が協働して作成することができた。子どもたちが小学校の生活時間に無理なく適応していくことができるように、時間割を作成する大切さを学んだ。



### (2) スタートカリキュラムの活用 (4月25・26日)

4月の一週目の朝の会で、子どもの安心をつくる時間として、わらべうたで手遊びをする活動、宝探しゲームの活動等を実施した。どちらも幼児期の生活に近い活動で分かりやすく、人と楽しく関わることができる活動だったので、入学して間もない中で緊張していた子どもたちも、すぐに笑顔で取り組むことができていた。

子ども同士で関わるのが苦手な子どもが数名いたため、教員が交流のサポートを行ったが、4月の初めに子ども同士が交流する機会を多く設定することで、子ども同士がつながるのが早かった。そして、教員も座学の授業の様子では見とることができない子どもたちの実態を、一人ひとり把握できた。



### (3) 三軒家西小学校 1年生 公開授業 (11月17日)

〈めあて〉音の上がり・下がりをかんじて「おせんべやけたかな」をつくろう

- 目標 ○音の上がり・下がりを感じ、歌の続きをつくり、イメージが伝わるように歌う。  
○音の上がり・下がりを知覚・感受し、イメージが伝わるように表現の工夫をする。  
○音の上がり・下がりに関心をもち、意欲的に音楽をつくって歌う。

#### 活動の内容と子どもの姿

〈最後の音の上がり・下がりを考える〉



自分のつくった歌の最後の音の上がり・下がりを考える。「最後の音は上げたいな」「あじつけて早く食べようよ、という感じにしたい」

〈表現の工夫の手がかりを得る〉



イメージが伝わるようにするには、どう歌えばよいのかをみんなで考える。「おせんべいが10まい」にするには「最後の音を上げて、強く」と出た意見をみんなで歌って確かめる。

#### 〈振り返り〉

- ・スタートカリキュラムを活用した授業となるように、歌いやすく分かりやすく、人と楽しく関わりながら学ぶことのできるわらべうたを教材としたことで、子どもたちは繰り返し歌を歌い、一人ひとりが自分のイメージをもって歌をつくることができた。
- ・歌の最後の音だけに焦点を当てて比較聴取したことで、「最後の音の上がり・下がり」を知覚、感受し、思いをもつことができた。

#### 〈討議内容〉

- ・子ども主体の、子どものわくわくが伝わる音楽の授業であった。どんな意見も先生が全て受け止めており、幼稚園教育とのつながりを感じた。子どもたちが思ったことや一人ひとりの違いを先生も子どもたちも認め合い、発表し、聞きあう姿が心に残った。「何を大事にしていきたいか」という面で、幼稚園と小学校の共通のつながりを感じた。
- ・子どもたちが活発に、積極的に自分の考えを発表し、友達の意見に拍手を送る姿、先生はどの子どもの思いや考えも受け止め認める姿を見て、安心感で包まれたクラスだなと感じた。自園の子どもたちも、小学校でこのように活動するんだと思うと、安心するとともに嬉しくなった。
- ・子どもが主体的に授業に参加していた姿が印象的だった。先生が一人ひとりの子どもの考えを全て受け止め、肯定的な対応と丁寧な見取りをされていて、必ず認めておられ、他の児童にも広め、皆から認められていることで、子どもが安心して自分の思いや考えを表すことができていると感じた。幼児教育で大切にしているところと共通していることに気付いた。

#### (4) 研究報告会 三軒家西小学校 講堂 (11月17日)

##### ○研究報告

神戸女子大学 金岩俊明教授に助言をいただきながら、これまで4校園所で、学び重ねてきたことを発表した。校種間の縦横のつながりが希薄になったという現状を踏まえ、互いを知り(教職員同士が教育活動やその内容を含めて)、また5歳児が安心して就学できるよう、さらに子どもや大人にとっても安心して過ごすことができることを願い、それぞれの校園所が互いを知り、学びを深めてきた取組について、研究に携わった教職員が感じたことや考えたことを織り交ぜながら報告した。

##### ○グループ討議会

- テーマ ① 研究報告会からの自分の考え  
② 各校園所の連携・接続についての伝え合い

参加者が9つのグループに分かれ、それぞれの校種での保幼小連携・接続についての問題点や疑問点、現状等を話し合った。

##### 《討議内容 テーマ①》

- ・(公開授業から)「いいですね」「ありがとう」と肯定的な言葉で1年生の考えについて全てを受け止めることが、子どもたちの安心につながる。
- ・子どものためにお互いの教育活動や目標・めあてを知り、連携を強化することが大切である。
- ・教職員同士の密な交流や情報交換が大切で、それは受信も発信も大事である。
- ・4校園所のつながりだけでなく、就学前施設同士のつながりも子ども・保護者・教職員の安心につながる。 など

##### 《討議内容 テーマ②》

- ・就学前施設から、小学校に連絡しづらく、つながりをもち始めることに難しさを感じる。  
(小学校の授業に関わりにくい、担任の先生の負担になるのではないか)
- ・小学校と就学前施設の交流は、地域差が大きい。交流を行うきっかけづくりについて、様々な方法を知りたい。
- ・教職員同士の交流が大切になってくる。小学校からの打診があれば、つながりやすい。
- ・交流はお互いにプラスになるので、目的やテーマを決めて無理のない交流から増やしていく。 など

#### (5) 三軒家西小学校で3園所交流活動 (11月15日)

- ねらい ○近隣で生活している友達や各園所の先生の存在を知り、同じ場所で遊ぶことを楽しむ  
○一緒に遊ぶ楽しさを感じ、お互いに関心や親しみをもつ  
○三軒家西小学校や小学校の先生への関心や親しみを感じる

##### 活動の内容と子どもの姿

##### <三軒家西小学校の先生や小学生との関わり>

3園所の5歳児が、学校長に挨拶をした。学校長の話を聞いたことで、校庭で思いきり体を動かして遊ぶことや、3園所の友達と一緒に遊ぶことへの期待がふくらんだ。

休み時間に入り、小学生が5歳児に声をかけてくれたことで、憧れの気持ちにつながった。



### <校庭での好きな遊び>



校庭の遊具で遊んだり、鬼遊びを楽しんだりする子どもたち。教員が鬼遊びに参加したことがきっかけとなり、3園所の子どもたちが一緒に鬼遊びを楽しみ始めた。

### <3園所の5歳児みんなで遊ぼう>

全員が知っている『だるまさんがころんだ』を行った。3園所の子どもたちが、同じ場でいろいろな友達や教員と一緒に遊びを楽しむことを通して、互いに親しみをもった。



### 《3園所の振り返り》

- ・子どもたちが『鬼ごっこ』を通して、どんどん関わり始める姿が見られた。氷鬼をしていたため、園所の隔てなく凍った友達や教員を助けるためにタッチして回ったり、「誰か助けて!」「凍ってるねん!タッチして!」と進んで声をかけたりしていた。
- ・昨年度よりも、3園所の子どもたちが関わって遊ぶまでの時間が短かった。今年度は、年度当初から各園所が進んで小学校に遊びに行ったり、行事で施設を借用したりして、子どもも教員も小学校に慣れ、親しみをもっていたからだと考える。
- ・昨年度から、教員が学習会や研究保育・授業等に関わる機会や意見を交わすことが多く、大人同士も関係づくりができたうえでの交流会だったため、活動のねらいや遊びの進め方、支援の仕方等の共通理解が大変スムーズで的確な援助がそれぞれでき、交流会を楽しめた。

## 3 Cブロックの研究のまとめ

### ○2年間の成果

子どもたち同士、そして大人同士、子どもと大人がこの2年間の取組を通して、『お互いを知り、共に学び、つながる』ための基盤をつくることができた。

就学前施設同士も公立・私立の垣根を超え、日常的に連絡を取り合い、積極的に情報交換や交流活動ができるようになった。さらに、4校園所が関わりを深めたことで、子どもも大人もお互いに刺激を受け、それぞれの教育活動への理解や学びにつながった。

また、スタートカリキュラムを協働作成する中で、就学前施設の教員は小学校の教育活動や



その内容を知り、小学校の教員は就学前に子どもがどのような教育活動を行ってきたのか等、互いに学び合う機会になった。スタートカリキュラムを活用したことで、1年生が一人ひとりのペースに合わせ、安心して小学校生活をスタートでき、その後の学校生活にも良い影響を与えることが分かった。保幼小連携・接続の必要性とその大切さをあらためて実感することができた。

### ○今後に向けて

私たちは保育・幼児教育センターからの声かけがあって、4校園所での連携・接続事業がスタートした。もし、それがなければ今も関わる機会が少なく、つながりも希薄であっただろう。

4校園所が関わりをもつきっかけをもらい、共通の願いと目標を掲げて2年間の研究に取り組んできたことで、4校園所の関わりやつながりの基盤をつくることができた。それを今後いかに継続していくことができるのかが重要である。

また、具体的な連携方法や交流活動の内容についても、子どもの育ちにつながった内容については丁寧に引継ぎし、関わる子どもと大人が変わっていく中で、その時の子どもの実態や4校園所の実情に応じて、臨機応変につくりかえる必要があると考える。

架け橋期の子どもたちも、関わる大人もともに安心して、それぞれの生活を楽しむことができるよう、今後も無理なく柔軟に楽しい関わりを進めていく。

## 4 指導講評 講師：神戸女子大学 金岩 俊明 教授

(記録:Cブロック教職員)

社会を維持・更新することを目的とし、子どもたちに一定の影響を与える『学校』の役割や地域社会の役割を理解したうえでの保幼小連携は、地域コミュニティを再生することにつながる。また、幼児期の活動で学んだことが小学校での生活や教科等の学習に生かされるよう、「協同(協働)による学び」を重視しながら連続性のある教育を構築することが大切である。

Cブロックの研究実践の成果は、次のような事柄である。研究テーマである『大人も子どもも知る・学ぶ・つながる～楽しく安心できる今をつくるために～』の『知る』において、4校園所の実態やそれぞれの特色を相互に理解し、保育・教育目標のすりあわせを行い、保育観や教育観の交流ができたこと。『学ぶ』については、遊びから学びへの連続性を大切にする中で、幼児期に育てておきたい10の姿を具体的な活動場面に位置付け、架け橋期の子どもの姿を共有したことである。『つながる』については、架け橋期カリキュラムの編成に向けた小学校スタートカリキュラムなどの実践に基づき子どもの姿を共有することが、地域における保育・教育ネットワークづくりにつながったことが挙げられる。

今後の課題として、研究の成果を園所校内で共有し、架け橋期の教育について一層の推進を図っていくこと、保護者に対して架け橋期の教育や接続カリキュラムの姿を発信し、理解を得るとともに、地域との会合においても2年間の取組の成果を伝えること、幼小の接続・連携から3者がつながる地域コミュニティの構築に向けて実践を継続することなどが重要である。

## 5 参加者のアンケートから

- ・ 4施設が積極的に研究に向き合われ、発表も施設長だけでなく、教員もそれぞれの立場で自分の言葉で話をされていることに、研究の成果を見ることができたと感じた。
- ・ 4校園所の先生方が、無理なく柔軟に交流から始め、連携・接続につながった経過が素晴らしかった。
- ・ 大人の温かいつながりが子どもに伝わっていく、これが継続すると子どもが豊かに育っていくのだろうと、温かい気持ちになった。
- ・ 小学校はゼロからのスタートではないことを強く感じた。子どもたちは、就学前施設でたくさんのことを学んで小学校に来ることが分かった。子どもたちの学びを生かした取組をしていきたい。
- ・ 就学前施設の教員が1年生の授業を見ることができ、ありがたかった。子どもたちが、主体的に楽しく授業を受けていたのを見て、保育でも一人ひとりの思いを大切にしていきたいと思った。
- ・ 公開授業が大変素晴らしく、子ども一人ひとりが大切にされ、いきいきと主体的に学ぶ姿に感動した。このような授業なら、安心して子どもを送り出せると思った。
- ・ 就学前施設の先生方が、もっと小学校とつながりたいと思っていることがよく分かった。
- ・ 同じ地域で育つ子ども同士をつなぎ、保幼小の学びの連携ができるように自身もどんどんアピールして、積極的に動いていこうと感じた。
- ・ 大人同士のつながりがあるからこそ、子どもの安心につながることを強く感じた。

6 資料

スタートカリキュラム作成表（第1週案）（○を15分として、1限につき3つ○を塗って計画）

スタートカリキュラム作成表1/週案（第1週）4/10～4/14

期待する児童の姿⇒ 学校の生活に安心し、環境になれる子ども

時限	一日の流れ	月	火	水	木	金
朝時間	♥安心をつくる時間	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び
1限	わくわくタイム	歌遊び お話 踊り ゲーム ( )				
2限	◎生活科を中心とする学習活動	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○
3限	◎生活科を中心とする学習活動	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○
4限	◆教科等を中心とする学習活動（合科的）	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○
給食・清掃						
昼休み						
5限	◆教科等を中心とする学習活動（単教科）	国語 算数 生活 音楽 図工 体育 道徳 学活				
帰りの会						
		わくわくタイム ( ) 国語 ( ) 算数 ( ) 生活 ( ) 音楽 ( ) 図工 ( )				
		体育 ( ) 道徳 ( ) 学活 ( ) 学校行事 ( ) 総時数 ( )				

2023.3.27.C ブロック研修資料

スタートカリキュラム作成表（第2週案）

スタートカリキュラム作成表2/週案（第2週）4/17～4/21

期待する児童の姿⇒ 学級のみならず生活を楽しむ子ども

時限	一日の流れ	月	火	水	木	金
朝時間	♥安心をつくる時間	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び	自由遊び 手遊び
1限	わくわくタイム	歌遊び お話 踊り ゲーム ( )				
2限	◎生活科を中心とする学習活動	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○
3限	◎生活科を中心とする学習活動	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○
4限	◆教科等を中心とする学習活動（合科的）	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○
給食・清掃						
昼休み						
5限	◆教科等を中心とする学習活動（単教科）	国語 算数 生活 音楽 図工 体育 道徳 学活				
帰りの会						
わくわくタイム ( ) 国語 ( ) 算数 ( ) 生活 ( ) 音楽 ( ) 図工 ( )						
体育 ( ) 道徳 ( ) 学活 ( ) 学校行事 ( ) 総時数 ( )						

スタートカリキュラム作成表 3/週案 (第3週) 4/24~4/28

期待する児童の姿⇒ 学校生活への思いをふくらませていく子ども

時限	一日の流れ	月	火	水	木	金
朝時間	♥安心をつくる時間 わくわく	遊び 歌 ゲーム	遊び 歌 ゲーム	遊び 歌 ゲーム	遊び 歌 ゲーム	遊び 歌 ゲーム
1限	◎生活科を中心とする学習活動	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○
2限	◎生活科を中心とする学習活動	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○	生活○○○ 国語○ 算数○ 音楽○ 図工○ 体育○ 道○学○
3限	◆教科等を中心とする学習活動 (合科的)	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○	国語○○○ 算数○○○ 生活○○○ 音楽○○○ 図工○○○ 体育○○○ 道学○○○
4限	◆教科等を中心とする学習活動 (単教科)	国語 算数 生活 音楽 図工 体育 道徳 学活				
給食・清掃						
昼休み						
5限	◆教科等を中心とする学習活動 (単教科)	国語 算数 生活 音楽 図工 体育 道徳 学活				
帰りの会						
国語 ( ) 算数 ( ) 生活 ( ) 音楽 ( ) 図工 ( ) 体育 ( ) 道徳 ( ) 学活 ( ) 学校行事 ( ) 総時数 ( )						